

アグファ 大阪で速乾印刷セミナー

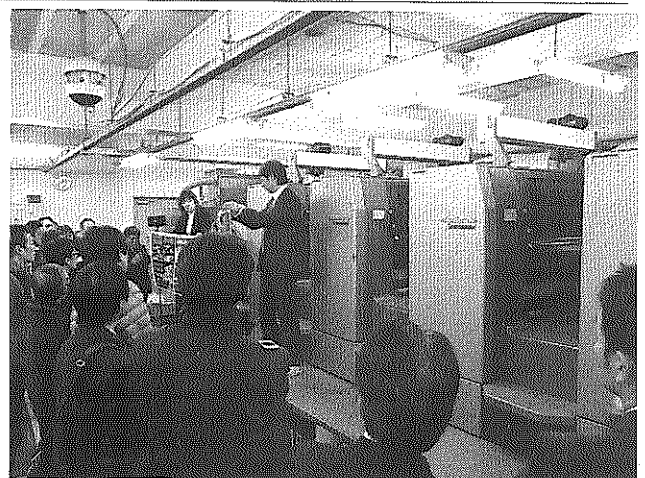
あさひ高速印刷の協力で第2弾

日本アグファ・ゲバルト(株)(松石浩行社長)は1月29日、大阪で速乾印刷実演セミナーを開催。およそ70名が聴講・見学に訪れた。



講師の加藤氏

長から速乾印刷の話を聞いた。このあと、(株)東京テックプラス(埼玉朝霞市岡1-20-5)の加藤隆行社長が「速乾と汚れのない印刷を目指し、メンテナンスによる現場力の向上」と題して講演した。



速乾印刷の全容を公開

「浅くて細かな先進の砂目構造により、版面で最小分子の独立水気泡を形成できることが適正性を強調。その実現に向けた自社メンテナンス向上やインキ、ヤレの削減による「印刷経営の再構築」昭和の印刷から平成の印刷への革新の必要性を呼びかけた。セミナー終了後、参加者はバスであさひ高速印刷へ移動。ハイデルベルグ社製全判4色機(油性)+アズーラTTSによる速乾印刷の実演が行われた。

また、セミナーの中では、速乾印刷におけるアズーラTTSの優位性について、まずユボに

重い絵柄を印刷した後、そのままジョブチェンジして、コート紙へのドンテンによる両面印刷へと移行。機長がインキツボを一切触ることなくCIP3活用による素早い色出しを披露した。とくにユボの実演では、およそ30分後にはほとんど乾いた状態であることが示され、来場者からも驚きの声があがった。

なお、アグファとあさひ高速印刷では、同実演セミナーを継続的に開催していく方向で検討しており、春頃にも第3弾を開催する予定。

この速乾印刷実演セミナーは、昨年4月から九州・東京で開催し、毎回満席状態になるほど盛況を呈していることから昨年10月には大阪でも初開催。今回も前回同様、あさひ高速印刷(株)(大阪市西区江戸堀、岡達也社長)協力のものと、2回目の開催となった。

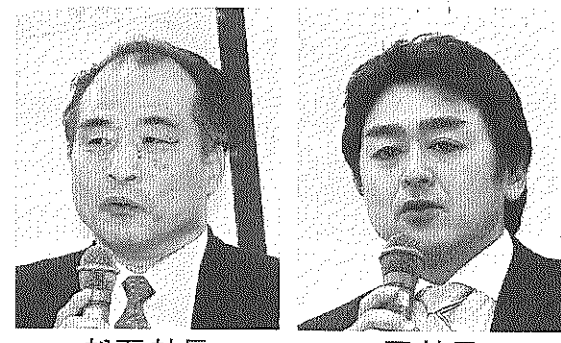
まず、大阪科学技術センターで行われたセミナーの冒頭、岡社長が挨拶に立ち、「当社の原点はモノクロ・文字物の世界を中心とする軽印刷業。およそ30年前からカラー化してものの、当時は『色が付いていけばいい』という感覚があったのは否めない事実。しかし品質が低ければコストが上がる。そんなことから、カラー印刷の根本的な改善は避けて通れないと考

え、私が社長になってからのおよそ10年間は様々な取り組みを行ってきたが、継続的な結果が得られなかった。あさひの協力を得た頃、日本アグファ・ゲバルトの松石社長から速乾印刷の話を聞いた。このあと、(株)東京テックプラス(埼玉朝霞市岡1-20-5)の加藤隆行社長が「速乾と汚れのない印刷を目指し、メンテナンスによる現場力の向上」と題して講演した。

約25年前から「3分乾燥印刷法」を実践してきた加藤社長は、現在、その技術指導から経営面に

至るまで幅広く印刷会社をサポートしている。講台上で、受注減、電子メタデータによる「数値化できる」ディマの台頭、コストダウン

また、セミナーの中で、速乾印刷におけるアズーラTTSの優位性について、まずユボに



松石 社長
岡 社長

善は避けて通れないと考え、私が社長になってからのおよそ10年間は様々な取り組みを行ってきたが、継続的な結果が得られなかった。あさひの協力を得た頃、日本アグファ・ゲバルトの松石社長から速乾印刷の話を聞いた。このあと、(株)東京テックプラス(埼玉朝霞市岡1-20-5)の加藤隆行社長が「速乾と汚れのない印刷を目指し、メンテナンスによる現場力の向上」と題して講演した。

アグファのPDFベータ月6日、東京・池袋のサステナブルワークフロースタジオ「アポジー」にて開催された。今回のアポジーユーザー

アグファのPDFベータ月6日、東京・池袋のサステナブルワークフロースタジオ「アポジー」にて開催された。今回のアポジーユーザー

アグファのPDFベータ月6日、東京・池袋のサステナブルワークフロースタジオ「アポジー」にて開催された。今回のアポジーユーザー

アグファのPDFベータ月6日、東京・池袋のサステナブルワークフロースタジオ「アポジー」にて開催された。今回のアポジーユーザー

グリフ数世界最多

(株)モリサワ(森澤彰彦社長)の明朝体「黎明」が、世界で最もグリフ数の多い書体ファミリーとしてギネス認定された。

6(2)万3,058文字に達した。黎明は、収録される文字数(グリフ数)が合計で70万文字を超える。

今回記録として認定された。

アズーラの効果

印刷通販ビジネスで成長を続けるプリントネット(株)の小田原洋一社長が講演。わずか7年で年商1億5000万円から30億円企業に急成長した戦略の秘訣が語られ、参加者は興味深く話に聞き入った。

また、その中で小田原社長は同社が昨年12月に導入した「Azura TTS」を使用した油性即乾印刷についても言及した。

モイストキャッチ 販路拡大

共同印刷(本社/東京都文京区、稲木歳明社長)が、医薬品パッケージなどへの提供を進めているフィルム型ゲッター剤「モイストキャッチ」が、このほど精密機器メーカーにも初採用された。

2004年の開発以来、医薬品や電子部品、精密機器など、あらゆる業界の湿気やアウトガス対策など、幅広い用途への提案を続けてきた結果、

ス認定

黎明は、収録される文字数(グリフ数)が合計で70万文字を超える。